

会 議 録

会議の名称	令和2年度第1回上尾市図書館協議会	
開催日時	令和2年8月3日（月）午後1時40分から午後3時50分まで	
開催場所	上尾市図書館本館2階 集会室	
議長(委員長)氏名	代島常造	
出席者(委員)氏名	須賀聡、北川悦子、岸清俊、山田浩一、佐々木智美、加藤寛子、藤波貢、代島常造、若松昭子、	
欠席者(委員)氏名	関口典子、宮内礼子、清水松代	
事務局(庶務担当)	池野教育長、小林部長、清水次長、島田館長、山内主幹、河原塚副主幹、松本副主幹、中島主査、内山主査、吉野主査、朝見主事	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 報告 ①令和元年度上尾市図書館事業報告について ②令和元年度第2次図書館サービス計画の進捗状況について ③令和2年度上尾市図書館事業概要について (2) 議題 ①次期図書館サービス計画等の策定について	別紙「議事の経過」のとおり
議 事 の 経 過	別紙「議事の経過」のとおり	傍聴者数 3名
会 議 資 料	上尾市図書館要覧（令和2年度） 資料1-1 令和元年度第2次図書館サービス計画の進捗状況について 資料1-2 令和元年度子どもの読書プランの進捗状況について 資料2-1 令和2年度上尾市図書館事業概要について（図書館） 資料2-2 令和2年度上尾市図書館事業概要について（支援センター） 資料3 次期サービス計画等の策定について	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 年 月 日 <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> 令和2年9月12日署名済み 議長（委員長）の署名 _____ </div>		

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
	報告① 令和元年度上尾市図書館事業報告について
議長	報告①について意見、質問はあるか。
A委員	「上尾市図書館要覧」の29頁だが、開館日数や来館者数が新規で記載され、実態が見えてきた。 令和元年度は臨時休館が多く、開館日数が減ったことにより、利用者数や貸出資料数が減少している。なぜ減少したのかが分からないので、臨時休館した理由を記載したほうが良い。また、1日当たりの利用統計が分かると良い。
	報告② 令和元年度第2次図書館サービス計画の進捗状況について
議長	報告②について意見、質問はあるか。
B委員	資料1-1の7頁「開館日及び開館時間の効果的設定」だが、分館、公民館図書室では開館時間が午前10時からに拡大したが、拡大した時間帯における来館者数は分かるのか。
事務局	開館時間の拡大を行った分館、公民館図書室については、手作業で利用者数を調べている。まだ、統計資料としてまとめられた状態ではないが、出来次第報告したいと考えている。
事務局	開館時間の拡大については、市民からの要望があり、現在の図書館サービス計画の中で検討課題として位置付けて実現することができた。 開館時間を拡大した2分館・3公民館図書室では、午前中の利用者が全体の約4割を占めていた。 また、貸出資料数も伸びた。
B委員	資料1-1の1頁「閲覧用資料」だが、新聞を置いていない分館・公民館図書室には、1紙でも良いのでお願いしたい。
事務局	予算の適正な配分を検討しながら、来年度に向けて検討していきたいと考えている。
C委員	読み聞かせを行っているボランティアは何人か。
事務局	38人である。
C委員	読み聞かせは、どこで行っているのか。
事務局	図書館本館、分館、支援センターや学校で行っている。
C委員	読み聞かせを行うには講習を受ける必要があるのか。
事務局	支援センターで、本の選び方や読み方の講習を行っている。
D委員	図書館のボランティア人数にはカウントされていないが、小学校の学校応援団に読み聞かせボランティアがいて、勉強会を定期的に行ったりしている。

副委員長	資料1-1の2頁「データベースの活用」だが、国立国会図書館の「デジタル化資料送信サービス」の閲覧回数が、平成29年度、平成30年度は実績値が記載されていて、令和元年度はなくなっているが。
事務局	これは、国立国会図書館の統計方法が変わったことによるものである。
副委員長	国立国会図書館のこのデータベースには、学術性の高いものだけではなく、子供の雑誌や、一般雑誌の記事なども含まれている。 とても良いコンテンツであり、多様な利用者を想定できるので、是非利用の促進をしてほしい。 何を閲覧することができるのかを具体的に、上手くPRすることができれば、利用者を増やすことができると思う。
事務局	積極的にPRしていきたいと考えている。
副委員長	来館しないと閲覧できないのか。
事務局	登録のある図書館のパソコンでないとパスワードを入力して閲覧できない。 閲覧した資料は有料でプリントアウトをして持ち帰ることができる。
A委員	以前、「デジタル化資料送信サービス」でプリントアウトしてもらったことがあるが、印刷が綺麗ではなかった。
事務局	利用者に良いものを渡せるように、職員の技術の向上を図りたいと思う。 また、先程の閲覧回数についてだが、図書館で受け付けをしているのでカウントすることは可能である。統計データがないと、費用対効果の検証も含め、比較することができないので、工夫していきたいと思う。
D委員	資料1-2の8頁「児童文庫」は記載が2団体だが、「シラコバト児童文庫」は入らないのか。
事務局	確認し、記載する。
	報告③ 令和2年度上尾市図書館事業概要について
議長	報告③について意見、質問はあるか。
E委員	令和元年度の2月、3月は新型コロナウイルスの影響があったと思うが、ほとんどの事業が実施できたという理解で良いのか。
事務局	新型コロナウイルスは、3月に入ってから実務的に影響が出てきた。よって、2月までの事業は実施できた。
F委員	上平小学校の蔵書数は、児童数に対する蔵書数の基準に満たないので、長期間一括貸出してもらっている「あっぴいぶっくるセット本」は、学校図書館が充実し、大変ありがたいと思っている。 また、「読書パスポート」についても、児童の読書の意欲を高めることに有効であり、大変ありがたいと思ってる。
議長	今年度の事業については実施方法を検討しているところであると思うが、いつ頃を目処に進めているのか。

事務局	<p>新型コロナウイルスの感染者が増加している状況なので、対面でのおはなし会などを開催することについては、見通しを立てるのは難しいと考えている。</p> <p>よって、オンラインでのおはなし会といった、非対面でのサービスが実施できるかどうか、設備的な面も含めて検討しているところである。</p>
議長	<p>図書館や博物館などといった社会教育施設を自分の生活の中に位置付けて、なくてはならないといった方が多くいる。</p> <p>おはなし会といったイベントも同様であると思うので、待っている方がいるという前提のもと、早く行っていかなければならないと思う。</p> <p>新型コロナウイルスの収束を待っていると、何年かかるか分からない。</p> <p>税金を納めている方もいるので、収束を待っているのではなく、何ができるか、何ができないか、早く検討して進めていかなければならないと思う。</p>
事務局	<p>担当には、オンラインおはなし会も含めて、実施可能な手法などを検討するように指示しているので、いろいろと確認しながら進めていきたい。</p> <p>速やかに実施するためには、人数制限を行うといった方法もあるかと考えているので、コロナ渦でも対応できることを、いろいろと工夫して行っていきたい。</p>
B委員	<p>「広報あげお」7月号に載っていた「アマビエ袋」のイベントは、すごく良いと思った。しかし、小学校や中学校の児童・生徒数を考えると、配布数が少ないのではないかと感じた。</p> <p>結果はどうであったか。</p>
事務局	<p>大変好評であった。</p>
	<p>議題① 次期図書館サービス計画等の策定について</p>
議長	<p>何か意見や質問はあるか。</p>
A委員	<p>「上尾市図書館の今後の在り方」が中心になると思うが、今の社会情勢を考えると、具体化する時に「with コロナ」の時代として考えていく必要がある。</p> <p>図書館の安全な利用という形もあるし、電子図書館といった非来館型の利用もある。そういった新しい時代と共存する前提の中で、計画を考えていく必要があると思う。</p>
事務局	<p>その通りであり、アウトリーチサービスということで、図書館に来館できない方へのサービスとしては、資料3の2頁2番目の「多様なニーズに対応するサービスの提供」というところを掘り下げて、計画に反映させる必要があると考えている。</p>
副委員長	<p>図書館は、来館者にサービスを提供するといった受け身の姿勢になりがちであったが、これからは、来ない人に対してサービスを投げかけることを新たに考えるべきである。</p> <p>これまでのサービスをオンラインやリモートで行うことに留まらず、新たに何ができるかを考えていく必要があると思う。</p> <p>コロナ渦の状況であるが、これを機会と捉えて、いろいろなサービスを今までと違った形で拡大していくことを盛り込んで欲しいと思う。</p>
B委員	<p>分館の役割は大きいと思うが、分館にリーダー的な存在はいるのか。</p>
事務局	<p>本館に、分館担当職員がいる。分館に職員は配置していない。</p>

B委員	<p>会議で話し合った内容を分館のスタッフにしっかりと伝えることが重要であると思う。</p>
議長	<p>全体の構成というのは、第2次計画と同様の構成か。また、「図書館の今後の在り方」との関連性は。</p>
事務局	<p>全体の構成だが、こういった計画は継続性が必要であるので、要素については引き継ぐことを考えている。</p> <p>ただ、前回の計画の反省点として、項目数が多すぎて細かいことが挙げられる。実施内容が、かなり踏み込んだものを評価対象にしているため、実施したか否かが評価となってしまっている。</p> <p>ある一定の目指すべき指標や、これこれの状態をつくり上げるというのが計画であると思うので、各項目を大きな枠組でまとめるなど、その辺りの作り方が前回と変わってくるのではないかと考えている。</p> <p>よって、項目数は減ると認識してもらいたい。</p> <p>次に、「図書館の今後の在り方」との関連性についてだが、「図書館の今後の在り方」にはサービス内容の貴重なエッセンスが集約されている。これをできるだけ抽出し、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に記載されている体系に落とし込んでいきたいと考えている。</p>
議長	<p>計画自体が膨大であると、管理する手間もかなりかかってしまう。それとのバランスもあると思うが、項目数が減ると聞き、非常に良いと思った。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>